

一、次の文章は実業家の堀江貴文氏と、銀座に名店「鮪^{すし}あらい」を営む鮪職人の新井祐一氏の対談です。これを読んで、あとの問いに答えなさい。

本文省略

【堀江貴文『堀江貴文<S>S 鮪職人 鮪屋に修業は必要か？』
(ぴあ株式会社)の文章による】

→ 駈

問一 傍線の部分㉑㉒㉓㉔のカタカナを漢字に直して書きなさい。

問二 傍線の部分アㄱエの中で品詞の異なるもの一つを選び、またその品詞名を漢字で書きなさい。

問三 傍線の部分Aの熟語と同じ構成のものを、次のアㄱエの中から一つを選び、記号で答えなさい。

ア 予約 イ 技術 ウ 笑顔 エ 発言

問四 傍線の部分Bの意味として最も適当なものを、次のアㄱエから一つを選び、記号で答えなさい。

ア 批判した イ 評価された ウ 論議を引きおこした エ 観客を沸かした

問五 本文中の□で囲んだ漢字について、次の矢印で示した部分は何画目に書きますか。漢数字で答えなさい。

問六 傍線の部分①とありますが、何を小さくしていきたいのか書きなさい。

問七 傍線の部分②について、鮫職人と同様に「人間力で商売」している職業を、次の中からすべて選び、記号で答えなさい。

ア 医師 イ 清掃員 ウ 農業 エ 保険の営業 オ 警察官

カ 風景画家 キ 心理カウンセラー ク 教師 ケ 美容師 コ 長距離ドライバー

問八 傍線の部分③とありますが、人間力で勝負するしなくなってきた原因を六十字程度で説明しなさい。

問九 傍線の部分④の「コミュニケーション力」とは、どのような力ですか。次の条件に従って、あなたの考えを書きなさい。

条件① 本文は二段落構成にし、二百二十字以内で書くこと。

② 第一段落には、コミュニケーション力とはどのような力かということを具体的に書くこと。

③ 第二段落には、コミュニケーションに関するあなたの経験を書くこと。

④ 原稿用紙の正しい使い方に従い、漢字を適切に使用しながら文字や仮名遣いなどを正しく書くこと。

二、高校一年生になったばかりの「ハル」は、同じ中学出身の「アイツ」に通学路で話しかけられることが続いていたが、説教じみた話をする「アイツ」に対して苦手意識が高まっていた。次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

本文省略

【横山 佳『二メートル』（BL出版）の文章による】

問一 傍線の部分㉔㉕の漢字は読みをひらがなで書き、カタカナは漢字に直して書きなさい。

問二 (A) の部分に入る最も適当な慣用句を、次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 口に戸を立て イ 目くじら立て ウ 聞き耳立て エ 腹を立て

問三 (B) (C) に入る最も適当な語を、次のア～エの中からそれぞれ一つ選び、記号で答えなさい。(同じ記号は二度使用しないこと。)

ア そして イ ところで ウ しかし エ つまり

問四 傍線の部分①について「ハル」の心情として最も適当なものを、次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 反省していることをアイツに気付かれて弱い立場にならないように、威圧しようとする気持ち。

イ 自分の行動が迷惑になっていると言われ、反論したいが、アイツの言い分が正しく落ち込み沈む気持ち。

ウ 無意識にやった行為が他人の迷惑になっているということを知り、自分の欠点を見つめ直そうという気持ち。

エ 自分の行動について指摘を受けたものの、素直に受け取れずイライラして物にあたろうとする気持ち。

問五 傍線の部分②とはどのようなことですか。空欄に入る適当な言葉を、指示された字数で具体的に答えなさい。

今までいい加減な生活を送ってきたが、(四十字以内) 自覚し怖くなったということ。

問六 「ハル」の特徴として当てはまるものを、次のア～エの中から二つ選び、記号で答えなさい。

ア 常識に外れた行動を許さない。 イ 強がってみせるが繊細。 ウ 筋道を立てた話が出る。

エ 頑固で人の話を聞かない。 オ 気持ちを言葉にするのが苦手。

三、次の古文を読んで、あとの問いに答えなさい。

魯の^ろ仲尼^{ちゆうぢ}、門徒を^{もんと}具^ぐして、路^{みち}におはしけるに、ある所に、垣^{かき}より馬の頭^{かしら}を^{さし}出したるを^見て、「牛^{うし}」とのたまひけり。はじめは^①これを^②思ひわかず、おのおの^③案^{あん}じめぐらすに、^④顔回^{がんくわい}よりはじめて、思慮の深き次第^{しだい}に心得^{こころえ}ける。

日よみの午^{うま}の頭^⑤出^いすは、牛なり。

【浅見和彦校注『十訓抄』(小学館)の文章による】

【注】魯の仲尼…孔子。儒教を説いた人

門徒…弟子たち

具し…連れて

おはしける…いらつしやる

垣…木や竹で作った囲い

のたまひけり…おっしゃった

思ひわかず…意味がわからず

おのおの…みんな

顔回…孔子の第一弟子

思慮の深き次第に…思慮の深い順に

心得…理解する

日よみ…子丑寅卯辰巳午未申酉戌亥の干支のこと

- 問一 傍線の部分ア・イの読みを現代仮名遣いに直し、平仮名で書きなさい。
- 問二 傍線の部分㉠㉡について、主語が「仲尼」であるものをすべて選び、記号で答えなさい。
- 問三 傍線の部分①の内容を二十八字で抜き出し、はじめと終わりの五字を答えなさい。(句読点を含む)
- 問四 傍線の部分②の意味として最も適当なものを、次のア～エから一つ選び、記号で答えなさい。
- ア あれこれと辺りを動き回っていたが
- イ あれこれと馬を心配していたが
- ウ あれこれと頭を働かせていたが
- エ あれこれと過去を振り返っていたが
- 問五 孔子が馬を見て牛と言ったのはなぜですか。三十字以内で答えなさい。
- 問六 孔子とその弟子たちの言行を記録した書物名を漢字で答えなさい。